

警 報

各関係機関の長 殿

福岡県病害虫防除所長

平成16年度病害虫発生予察警報第1号について（送付）

このことについて、以下のとおり送付します。

平成16年度病害虫発生予察警報第1号

- 1 対象作物 果樹全般（カキ、ナシ、ブドウ、カンキツ等）
- 2 病害虫名 果樹カメムシ類（チャバネアカカメムシ、ツヤアカカメムシ、クサギカメムシ）
- 3 発生地域 県下全域
- 4 発生時期 7月～8月
- 5 発生程度 多い
- 6 警報の内容
 - （1） 7月1半旬の予察灯におけるチャバネアカカメムシ誘殺数は2,388頭（平年：497頭、前年：7頭）と多く、この時期の誘殺数は平成8年、14年の大発生時より多い。
 - （2） 同時期のフェロモントラップでのチャバネアカカメムシ誘殺数は22,358頭（平年：3,483頭、前年：4頭）と多く、14年の誘殺数とほぼ同じである。
 - （3） 7月に入り、各地のカキ、ナシでカメムシ類の加害による被害が発生し始めている。
 - （4） ヒノキ球果の結実量が極めて少なく、ヒノキからの離脱が早いので、今後も飛来数の増加が予想される。

発生は、14年より1～2半旬早く被害が確認されており、今後も被害の拡大が予想されるので、発生状況には十分注意し、早期防除による被害の軽減に努める。

7 防除上注意すべき事項

- （1） 果樹園内を注意して見回り、飛来を認めたら直ちに防除する。
- （2） カメムシ類は、広範囲に移動するため、薬剤散布は広域での一斉防除の方が効果が高い。
- （3） 黄色蛍光灯を設置している園地では早急に点灯する。なお、ツヤアカカメムシ、クサギカメムシには忌避効果がないので薬剤防除を併せて実施する。
- （4） 防除薬剤は樹種によって使用できる薬剤が異なるので注意し、農薬使用基準を遵守する。
- （5） 降雨があると薬剤の残効が短くなるので、散布間隔に注意する。